

AMR対策臨床セミナー in 姫路
2022年11月26日

姫路赤十字病院における 抗菌薬適正使用の取り組み

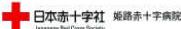
姫路赤十字病院 感染管理室
抗菌薬適正使用支援チーム
(Antimicrobial Stewardship Team : AST)
薬剤部
感染制御認定薬剤師 畑中由香子



兵庫県姫路市 人口52万人



姫路市ホームページより



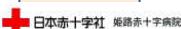
姫路赤十字病院 感染管理室
抗菌薬適正使用支援チーム
(Antimicrobial Stewardship Team : AST)



2018年 4月
AST結成

- ICD医師
- 感染管理認定看護師
- 抗菌化学療法認定薬剤師
- 感染制御認定臨床微生物検査技師
- 感染管理室事務担当

血液培養陽性患者への
介入開始



COI開示

演者：畠中 由香子

本講演に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業などはありません

姫路赤十字病院 概要

- 病床数 560床 ■ 33診療科
- 2021年度統計
病床稼働率：84.1%
平均在院日数：9.1日
入院患者数：平均469人/日
外来患者数：平均1375人/日

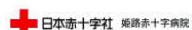


DPC特定病院群

地域医療支援病院、災害拠点病院

地域がん診療連携拠点病院(高度型), ゲノム医療連携病院
総合周産期母子医療センター

第二種感染症指定医療機関施設 感染対策向上加算1



経口第3セフェム処方への関与

血液培養陽性患者への介入成果のフィードバック
(院内学術発表会等)

各診療科へ、抗菌薬適正使用のアプローチを開始

①小児科におけるペニシリン系の適正使用推進
アンピシリンスルバクタム→アンピシリン
スルタミシリン→アモキシシリン

②クリニックルパスにおける
周術期抗菌薬への関与

抗菌薬の採用品目見直し
(抗菌薬供給制限に対応)

2018年

経口第3セフェム処方への関与

血液培養陽性患者への介入成果のフィードバック
(院内学術発表会等)

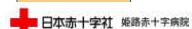
各診療科へ、抗菌薬適正使用のアプローチを開始

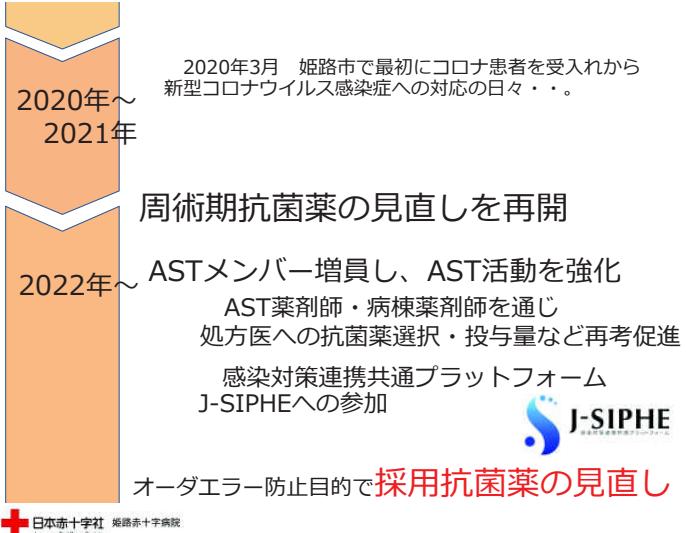
①小児科におけるペニシリン系の適正使用推進
アンピシリンスルバクタム→アンピシリン
スルタミシリン→アモキシシリン

②クリニックルパスにおける
周術期抗菌薬への関与

抗菌薬の採用品目見直し
(抗菌薬供給制限に対応)

2019年





日本赤十字社 姫路赤十字病院

内服抗菌薬選択の適正使用推進 (2018年～)

経口第3セフェムは
ESBL産生菌等の耐性菌
のリスク因子として報告
あり、慎重な使用が必要。

当院医師に対し、
第3経口セフェム処方の
現状アンケート調査
および
適正使用の啓発活動

日本赤十字社 姫路赤十字病院

この度、経口第3セフェム処方(以下、「経口第3セフェム」)の選択基準を統一いたします。
当院用の
経口第3セフェム
セフカペニン(プロモラクタモラクタ)
セブリレン(アイアクモラクタ)
トミロン(セフェム)

そこで、選択基準のためご多忙のところ恐れ入りますが、調査記入にご協力お願いします。

問1 病床年間に、上記の「経口第3セフェム」のご使用回数
7. あり 三回以上 なし 二回以上 う 今はない、以前はあり 三回以上

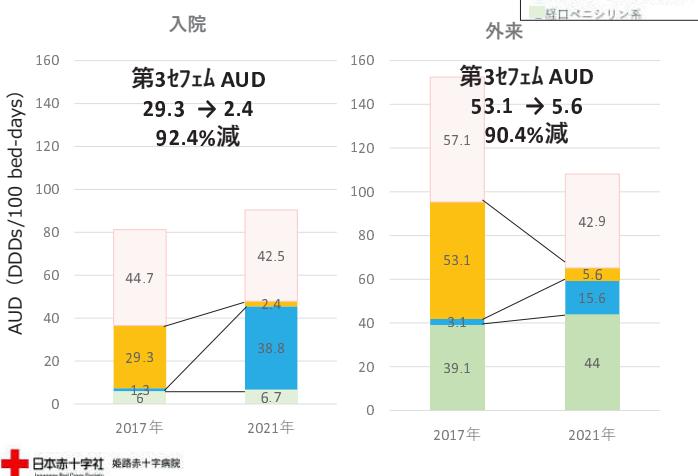
問2 【ご使用回数】の先生方へ
7. 症状悪化なかった理由(複数回答可)
8. 経口第3セフェム 自体の適応性に問題ないと考える
9. 「経口第3セフェム」身体の適応性に問題ないと考える
10. その他()

問3 【ご使用回数】の先生方へ
7. 調査実施者(された)ものに多い情報を教えて下さい。(複数回答可)
8. 時間経過後(経過時間)三ヶ月以内は、耐性菌感染、非典型感染、ウイルス感染、その他の
9. 対象疾患
10. フォーメス不鮮明の感染症一例
11. 初回の薬品選択予想(具体的には選択肢を教えて下さい)
12. その他()

問4 「経口第3セフェム」を处方せざるを得ない状況はありますか?
7. あり (どのような状況ですか?) () 特になし

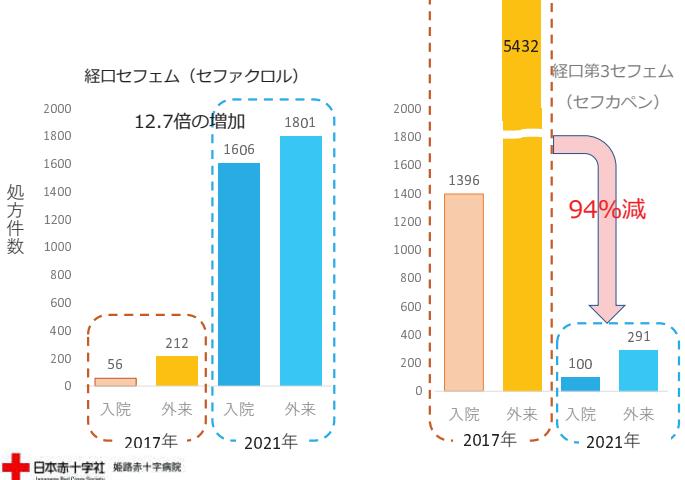
問5 「経口第3セフェム」についてのご意見、そのほか抗菌薬会社に問い合わせ、ご意見、ご要望等おねがい下さい
()

主な経口抗菌薬の使用量



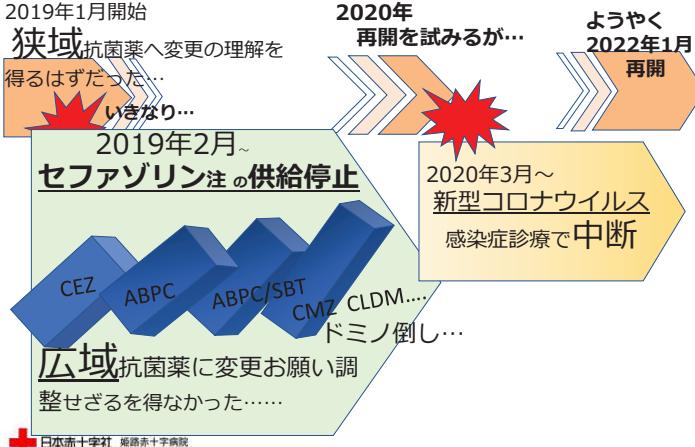
日本赤十字社 姫路赤十字病院

経口第1・2セフェムと経口第3セフェムの処方件数の比較



日本赤十字社 姫路赤十字病院

2019年 クリニカルパスの周術期抗菌薬見直しを開始



日本赤十字社 姫路赤十字病院

「術後感染予防抗菌薬適正使用
のための実践ガイドライン」を活用
(日本化学療法学会・日本外科感染症学会)

各診療科のご協力により
周術期クリニカルパスの抗菌薬を変更



	全 パス数	AST介入 パス数	変更した パス数
外科	38	33	33
産婦人科	40	20	20
整形外科	27	25	20
泌尿器科	21	6	6
耳鼻咽喉科	39	20	20
小児外科	13	5	5
計	178	109	104

変更受諾率95.4%

介入内容：抗菌薬の種類変更
投与期間の短縮
内服薬への切替を削除
半減期より術中追加投与



日本赤十字社 姫路赤十字病院

兵庫県姫路市市民向け広報誌

健康・福祉

知ろう！ AMR対策

～「AMR」の怖さを知り、一人ひとりができる対策を講じていきましょう～
▶地域医療課・☎221-2399

AMRとは

「Antimicrobial Resistance」の略語で、日本語では「薬剤耐性」と言います。抗生物質（抗生素）の使用に伴い病原体が変化し、特定の種類の抗菌薬が細菌に効かなくなることです。

このAMRには、どのような脅威があると思いますか。現在、AMRによって世界で年間100万人を超える人が亡くなっています。このまま何も対策を講じなければ、2050年には年間約1,000万人が亡くなると予想されています。この数は、がんによる死者数を上回ることになります。

●本市のAMRに対する取り組み ①AMRを題材にしたオンラインによる国際的なシンポジウムの開催実績②「AMR対策推進のまち」を宣言③全国的な協議会であるAMRアライアンス・ジャパンへの活動に自治体として初めて参画

13 広報ひめじ 2022年(令和4年)11月号

通常はがき 国往復はがき 封書 電話 市役所の所在地は〒670-8501 姫路市安田四丁目1

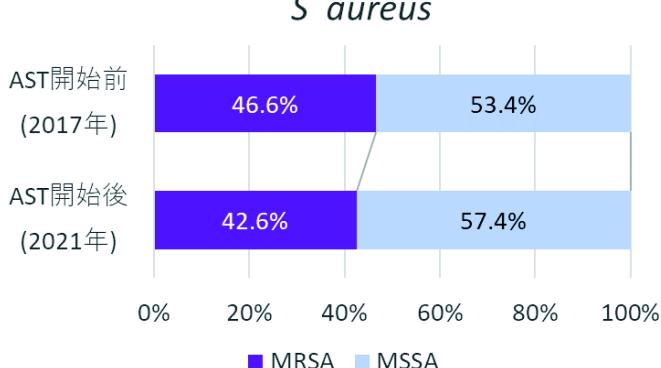
今日のおぬこナリ

抗菌薬適正使用活動の アウトカム評価

日本赤十字社 姫路赤十字病院

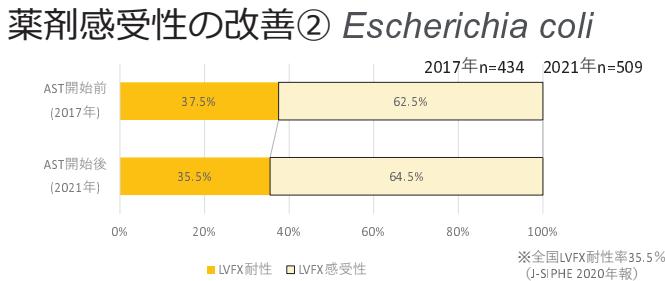
薬剤感受性の改善① *S aureus*

2017年n=435 2021年n=306



※全国MRSA検出率55.2% (J-SIPHE年報2021)

日本赤十字社 姫路赤十字病院



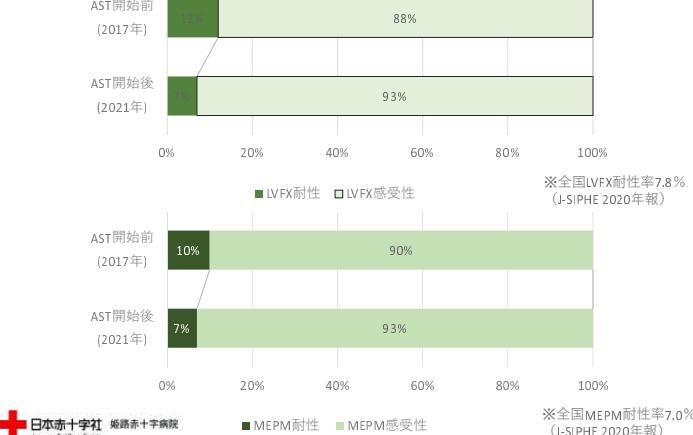
2017年n=434 2021年n=509

※全国LVFX耐性率35.5% (J-SIPHE 2020年報)

日本赤十字社 姫路赤十字病院

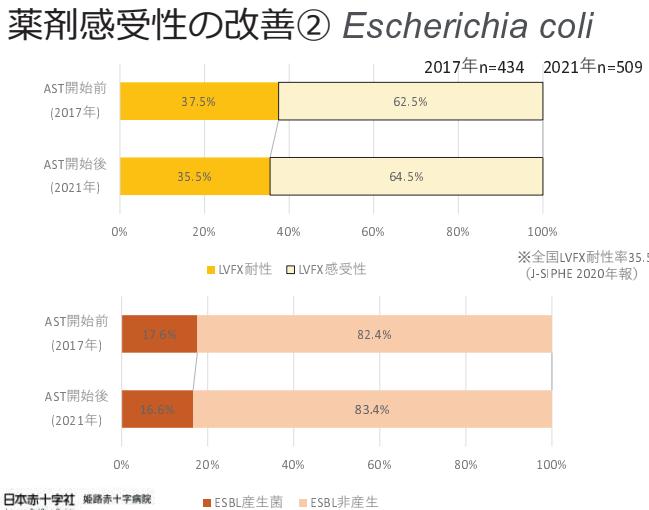
薬剤感受性の改善② *E. coli*

2017年n=211 2021年n=164



※全国LVFX耐性率7.8% (J-SIPHE 2020年報)

日本赤十字社 姫路赤十字病院



2017年n=211 2021年n=164

※全国MEPM耐性率7.0% (J-SIPHE 2020年報)

日本赤十字社 姫路赤十字病院

入力エラーによる不十分な投与量を防止するため採用規格を工夫

系	採用品	追加	成人の用法用量	備考	
Penicillin系	ピクシリン注射用[500mg](ABPC) テルモ生食TK[100mL]	1瓶	ピクシリ ン®注 0.25 g 0.5 g	2g 2g/回 ×4回/日	小児量2規格に、成人量を加え3規格へ。
カルバペネム系	ピクシリン注射用[500mg](ABPC) テルモ生食TK[100mL]	1瓶	メロペネム注 0.5 g	1g 1g/回×3回/日	これまで5~7症例に1例に投与量が不十分だった可能性
	ピクシリン注射用[500mg](ABPC) テルモ生食TK[100mL]	1瓶	フィニパックス 注 0.25g	0.5g 0.5g/回×3回/日	重症0.5g/回×3回/日 最大1g/回×3回/日

日本赤十字社 姫路赤十字病院

抗菌薬適正使用活動のアウトカム評価

	2017年度 → 2021年度 (n=17,218) (n=16,615)
在院日数	9.9 日 → 9.1日 (p < 0.05)
抗菌薬の薬剤費	9730.9円/人 → 8264.8円/人 (p < 0.05)
再入院率(予定外)	4.2 % → 4.3 % (p=0.64)

Studentのt検定

対象：全注射抗菌薬使用患者



日本赤十字社 姫路赤十字病院

Japanese Red Cross Society

まとめ

- セファゾリンなど抗菌薬の供給問題、新型コロナウイルス感染症などの中、多職種チームがコミュニケーションをもって活動し、抗菌薬適正使用の浸透と持続、改善がみられている。
- 今後、抗菌薬適正使用をさらに地域で取り組み、薬剤耐性率の減少につなげたい。



日本赤十字社 姫路赤十字病院

Japanese Red Cross Society



日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。

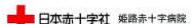
今年度、当院受審 (公益財団法人日本医療機能評価機構)
病院機能評価の中間評価において、「診療の質」項目が最高位 **S評価** を頂き、
その具体的な事例4つのひとつに掲げられました！

S評価

1.5.2 診療の質改善

臨床病理検討会を年間に50回開催するなど、各診療科内や複数診療科間および多職種を交えての症例検討会やカンファレンスを多数行っている。また、学会等の診療ガイドラインを利用しやすいように整備している。クリニックバス委員会では、令和2年5月よりクリニックバス管理室を設置し、クリニックバスをKPI (Key Performance Indicator) で評価している。**抗菌薬適正使用** チーム提案の投与期間の短縮・内服抗菌薬の中止とEBMに基づいた抗菌薬の使用のための「周術期バスの抗菌薬使用の修正」、リエゾンチームからの転倒転落のリスク軽減のため「睡眠導入薬の見直し」、「眼科錠内障バスの短縮」、入院病室決定前からクリニックバスオーダーを使用可能としクリニックバスの使用率を向上するため「バス食事保留機能の開始」など、クリニックバス適用率向上や改善を積極的に推進している姿勢は、高く評価できる。各病棟でのパリアンス分析に基づいたクリニックバスの修正も確認できた。「姫路赤十字病院臨床指標」をホームページ上で公開し、日本赤十字社の臨床指標にてベンチマーク分析情報を共有し、診療の質向上に向けた努力も積極的に行っている。

→**病院機能評価**においても、**抗菌薬適正使用の取り組みが評価**されています。



日本赤十字社 姫路赤十字病院

Japanese Red Cross Society